



## 論点整理

### 第四章 情報活用能力の抜本的向上と 質の高い探究的な学びの実現 ①

## 情報活用能力の抜本的向上 ①

### －体系的・抜本的な教育内容の充実－

#### 小学校段階

- ◆ 体験的な活動の中で情報活用能力を育む重要性を踏まえ、一定の時間を確保した上で、発達段階を踏まえつつ、総合的な学習の時間に「情報の領域（仮称）」を付加すべき
- ◆ その際、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するという、探究の特質が十分に発揮されること、情報活用能力が各教科等の探究的な学びの深まりにも資することに留意しつつ、情報活用能力の着実な育成を図るべき
- ◆ 情報技術の活用、長時間利用の影響を含む適切な取扱い、特性の理解について、中学校との系統性を意識して検討すべき。とりわけ、生成 AI 等の技術革新がもたらす負の側面も踏まえつつ、情報技術が認知や行動に与えるリスクに留意すべき



#### 中学校段階

- ◆ より発展的に情報技術を理解・活用して問題発見・解決する力を育成する観点から、技術分野の領域「情報の技術」を引き続き受け皿と位置付け、大幅な充実を図るべき（例：コンピュータやネットワークの仕組みの理解・データ活用などの充実、他領域との関わり強化（材料と加工、生物育成、エネルギー変換））。その際、情報技術が認知や行動に与えるリスクに留意すべき
- ◆ その際、現在の技術・家庭科については、教員免許、担当教員は別であるが、成績評価の際は一つの教科として記載していること等に伴うデメリットも大きいため、家庭科と情報・技術科（仮称）の二つの教科に分離すべき

### 一つずつ着実に身に付けていく

し ろ き あ いま これ おこな あた  
子路、聞くこと有りて、未だ之を行 うこと能わざれば、  
た き あ おそ  
唯だ聞く有らんことを恐る

（訳）弟子の子路は、先生から学んだことをまだ実行できないうちに、更に新しいことを学ぶことを恐れた。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）